

第 1 3 章 経済成長（2）

応用マクロ経済学 2



教員：奴田原 健悟

<http://www.kengonutahara.com/teaching>

第13章のアウトライン

第13章の授業でやること

- 1 ソロー・モデル
- 2 人口成長のあるソロー・モデル

教科書との関係

- ▶ 「マンキューマクロ経済学Ⅱ（応用篇）」（東洋経済新報社）の第1章

1. ソロー・モデル

ソロー・モデル

(1924-)が開発



現代のマクロ経済学で広く用いられている理論

仮定

価格： _____ 的

資本ストック K

- ▶ _____ で、資本ストックは増加
- ▶ 生産に使った資本は _____

労働供給 L ：人口が成長（但し、最初は一定を仮定）

消費・投資：後述

政府なし： $G = 0$ 、 $T = 0$

閉鎖経済：純輸出 $NX = 0$

1人当たり生産関数 (2/3)

集計生産関数が、「規模に関して収穫
_____」を仮定すると

$$zY = F(zK, zL)$$

いま $z = 1/L$ とすると

$$Y/L = F(K/L, 1)$$

$$\iff y = F(k, 1)$$

$$\iff y = \underbrace{\hspace{10em}}_{\text{(一人当たり生産関数)}}$$

1人あたり生産関数 (3/3)

集計生産関数で MPK が逓減するなら、1人あたり資本 k の限界生産も

⇐ (1人あたり資本の限界生産) = $f(k+1) - f(k)$ は、
とかけるため

前ページにあるように、1人あたり生産関数の定義は
 $f(k) = F(k, 1)$

貯蓄と投資 (1/2)

消費 : 貯蓄率 s 一定を仮定

$$c = \underline{\hspace{10em}}$$

← ケインズ型消費関数とは異なる！

- ▶ ソローモデルの消費関数：貯蓄率一定
- ▶ ケインズ型消費関数： $\underline{\hspace{10em}}$ 一定

貯蓄 :

$$(\text{貯蓄}) = \underline{\hspace{10em}}$$

貯蓄と投資 (2/2)

国民所得勘定の恒等式 :

$$C + I = Y$$

$$\iff c + i = y$$

$$\iff i = \underline{\hspace{2cm}}$$

(但し、 $c = C/L$ 、 $i = I/L$ は1人当たり消費・投資)

閉鎖経済では、(投資) = () だから

$$i = sy = \underline{\hspace{2cm}}$$

資本の変化 (1/2)

一人当たり資本の増加分 Δk :

$$\begin{aligned}\Delta k &= (\text{投資}) - (\text{減耗}) \\ &= i - \delta k\end{aligned}$$

(但し、 δ (デルタ) は資本減耗率)

$i = sf(k)$ なので、以下が成立

資本蓄積式 (ソローモデルで最も重要な式)

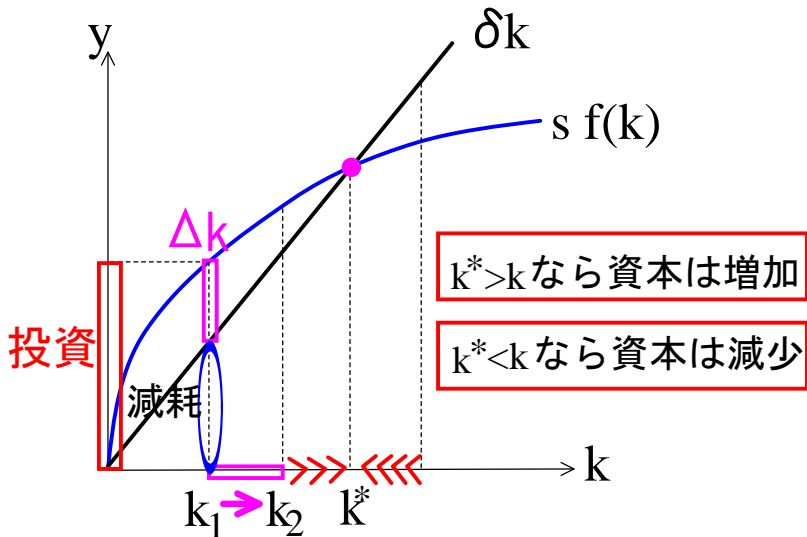
$$\Delta k = \underline{\hspace{10em}}$$

資本の変化 (2/2)

資本の変化をずっと追いかけるのは大変なので、
に注目することにする

- ▶ 定常状態：1人当たり資本が一定になっている状態
($\Delta k = \underline{\hspace{2cm}}$)
- ▶ 定常状態の1人当たり資本ストック量： k^*

資本の変化



数値例 (1/2)

集計生産関数 : $Y = K^{1/2}L^{1/2}$

規模に関して収穫一定なので

$$zY = (zK)^{1/2} (zL)^{1/2}$$

$z = 1/L$ とすると

$$\begin{aligned} Y/L &= (K/L)^{1/2} (L/L)^{1/2} \\ &= (K/L)^{1/2} \\ &= k^{1/2} \end{aligned}$$

1人あたり生産関数 : $y = \underline{\hspace{2cm}}$

計算問題

[問題] $y = k^{1/2}$ 、 $s = 0.3$ 、 $\delta = 0.1$ のとき、定常状態の1人当たり資本ストック量 k^* 、1人当たり生産量 y^* 、1人当たり消費 c^* を求めよ。

[解答] 前ページから、定常状態では

$$\frac{s}{\delta} = k^{*1/2}$$

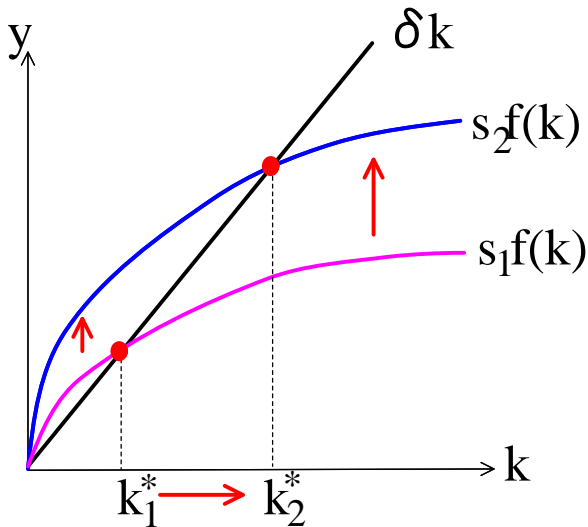
$s = 0.3$ 、 $\delta = 0.1$ を代入すると

$$\underline{\hspace{2cm}} = k^{*1/2} = \underline{\hspace{2cm}}$$

なので、 $k^* = \underline{\hspace{2cm}}$ 、 $y^* = k^{*1/2} = \underline{\hspace{2cm}}$ 、

$c^* = (1 - s)y^* = \underline{\hspace{2cm}}$

貯蓄率の影響 (1/2)



貯蓄率の影響 (2/2)

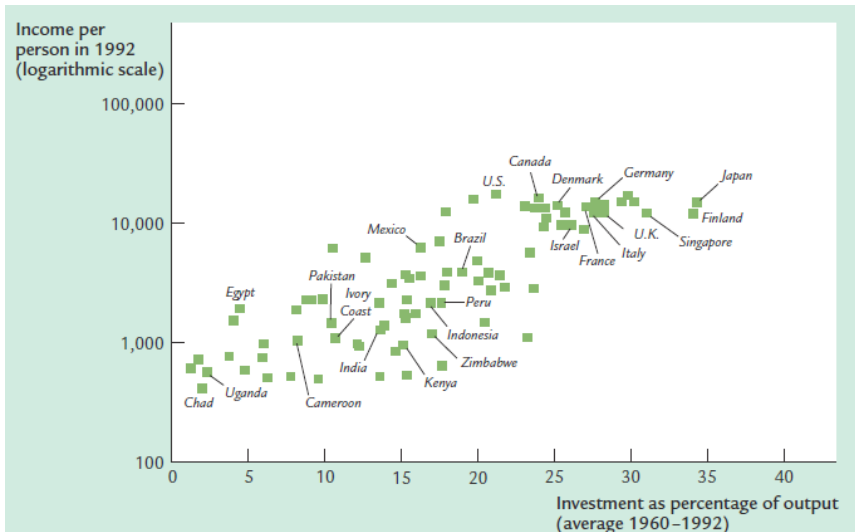
貯蓄率↑の効果（定常状態）

- ▶ 一人当たり資本 k^* _____
- ▶ 一人当たり生産 y^* _____
- ▶ 一人当たり消費 c^* _____

ソロー・モデルによれば、貯蓄率の高い国は
1人当たり所得が _____

⇐ これはデータと整合的か？（次ページ）

データ：貯蓄率と一人当たり所得



黄金律 (1/3)

ソロー・モデルでは、貯蓄率 s に応じて
定常状態が異なる

最も望ましい定常状態： _____ が最大

⇐ _____ (Golden Rule)

- ▶ k_g^* : 黄金律の定常状態 1 人当たり資本
- ▶ $c_g^* = (1 - s)f(k_g^*)$: 黄金律の定常状態 1 人当たり消費

黄金律はどんな貯蓄率のときに達成されるか？

黄金律 (2/3)

消費を考えると

$$\begin{aligned}c_g^* &= y_g^* - i_g^* \\ &= \underline{\hspace{10em}}\end{aligned}$$

($\Delta k = i - \delta k$ は定常状態で $i^* = \delta k^*$)

k_g^* を 1 増加させたときの、消費の増加分 Δc_g^* は

$$\begin{aligned}\Delta c_g^* &= [f(k_g^* + 1) - \delta(k_g^* + 1)] - [f(k_g^*) - \delta k_g^*] \\ &= [f(k_g^* + 1) - f(k_g^*)] - \delta \\ &= \underline{\hspace{10em}} - \delta\end{aligned}$$

黄金律 (3/3)

MPK は逡減するから、 _____ のときに消費が最大

- ▶ $MPK > \delta$: 資本は黄金律水準よりも _____
(貯蓄率は _____ すぎる)
- ▶ $MPK < \delta$: 資本は黄金律水準よりも _____
(貯蓄率は _____ すぎる)

⇒ $MPK = \delta$ を達成できる貯蓄率で黄金律が達成

2. 人口成長のある ソロー・モデル

人口成長 (1/2)

ここからは、人口成長を考える：人口成長率 n

$$\frac{\Delta L}{L} = n$$

1 人当たり資本一定に必要な投資量：

- ▶ _____：減耗分を補うために必要
- ▶ _____：新しく増えた人口に資本を配るのに必要

⇒ _____

人口成長 (2/2)

人口成長がある場合の資本の変化：

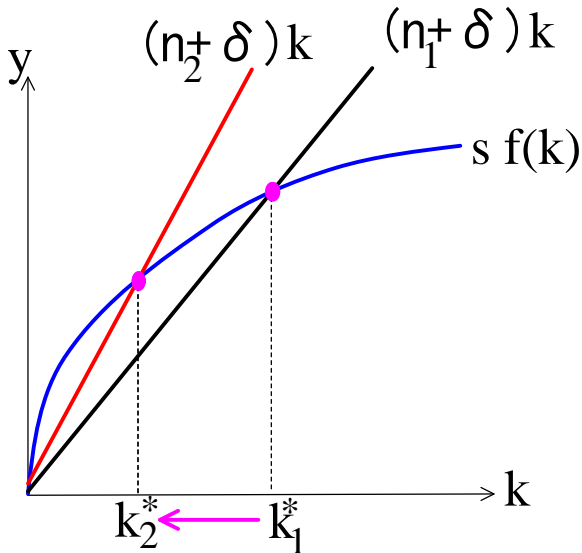
資本蓄積式（人口成長がある場合）

$$\Delta k =$$

⇐ p11 の式の一般化になっている

- ▶ 上の式で $n =$ _____ だと、p11 に一致

人口成長率の影響 (1/2)



人口成長率の影響 (2/2)

人口成長率↑の効果 (定常状態)

- ▶ 1人当たり資本 k^* _____
- ▶ 1人当たり生産 y^* _____
- ▶ 1人当たり消費 c^* _____

人口成長率の高い国は、1人当たり所得が

⇐ これはデータと整合的か？ (次ページ)

データ：人口成長率と1人当たり所得



人口成長があるときの黄金律

消費を考えると

$$c_g^* = y_g^* - i_g^*$$

=

($\Delta k = i - (\delta + n)k$ は定常状態で $i^* = (\delta + n)k^*$)

k_g^* を 1 増加させたときの、消費の増加分 Δc_g^* は

$$\Delta c_g^* = [f(k_g^* + 1) - (\delta + n)(k_g^* + 1)] - [f(k_g^*) - (\delta + n)k_g^*]$$

$$= [f(k_g^* + 1) - f(k_g^*)] - (\delta + n)$$

$$= \underline{\hspace{2cm}} - (\delta + n)$$

$\Rightarrow MPK \underline{\hspace{2cm}} \delta + n$ で黄金律が達成